

京都市小学校教科書選定委員会 答申

社会科について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

選定の観点

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。
- 2 習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。
- 3 児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。
- 4 グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎の育成に向け、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動が展開しやすいこと。
- 5 持続可能な社会の担い手として社会や暮らしの問題に目を向け、社会の形成に参画する力を育てるとともに、伝統と文化を尊重し、我が国と郷土に対する愛情を育むことに資する教材や活動が適切に取り上げられていること。
- 6 単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。
- 7 基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。
- 8 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

社会科

調査研究の結果の概要

■東京書籍「新しい社会」

「まなび方コーナー」では、情報の集め方、読み取り方、まとめ方などの学習技能が豊富に示されている。また「ことば」欄では、学習で重要となる用語等を取り出し、解説を加えて示すとともに、単元末に設定された「まとめの活動にことばを生かそう」では、キーワードを再度示しその活用を促すことで、基礎的・基本的な内容を習得できるよう工夫されており、優れている。

単元構成が「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の4段階に統一され、「つかむ」で設定した問いに関連する学習内容について調べ、調べたことを書いて発表したり、疑問点について話し合ったりするなど、一貫した学習の流れの中で問題解決的な学習が展開しやすく、思考力・判断力・表現力を高められるよう、工夫されている。

「しょうかいパンフレットをつくる」や「プレゼンテーションの資料をつくる」などで、ICT機器を活用して単元の学びを各自でまとめたり、友達に紹介したりする学習活動が、具体的な手順とともに示されている。また、図や想像図、写真などを見て気付いたことや疑問に思ったことを話し合う活動では、台詞や吹き出しを疑問形で示し、学習の方向づけや思考の視点を明確にすることで探究意欲を高めるとともに、適切な場面で振り返りを促す工夫がなされており、優れている。

「学習の進め方」のページで、社会的な見方・考え方を「位置や広がり」「時間」「かかわり」「比べる、分類する、総合する、関連づける」の4つに分類して解説した上で、単元内においてはキャラクターの囲み表示で、基本的に見開き1ページに1つ児童への問いとして適切に提示されており、児童が見方・考え方を働かせて思考を広げて課題を追究しやすく、優れている。

4年生「風水害から暮らしを守る」では、県や市、地域の防災への取組を具体的に取り上げ、さらに家の人へのインタビューやマイ・タイムラインの作成など、自分たちにできる防災への取組を具体的に考えて行動につなげるなど、地域や社会の形成に参画することの重要性を理解できるよう工夫されており、優れている。

4年生「自然災害から暮らしを守る」の学習では理科の「天気の様子」、5年生「米作りのさかんな地域」では家庭科「ご飯の調理」、6年生「貴族の暮らし」では国語科の「日本の文字」などを、関連する学習単元としてマークで示しており、他教科との関連を具体的に意識できるようになっており、優れている。

■教育出版「小学社会」

教科書の随所に、「学びのてびき」が配置されており、資料の読み取り方や地図の書き方、着眼したいポイントなどの学習技能が分かりやすく記載されている。さらに、単元末に「キーワードをふり返ろう」のコーナーが設けられ、学習した言葉の活用を促すことで基礎的・基本的な内容

の定着を図ることができるよう工夫されており、優れている。

学習問題の追究・解決のプロセスが「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」として設定され、単元における学習過程が把握できるよう工夫されている。また、1時間ごとの活動の流れや、毎時間の終末には「次につなげよう」という記述があり、問いの連続性を大切にしながら問題解決的な学習が展開しやすく、思考力・判断力・表現力を培う手立てとなっており、優れている。

また、単元の冒頭に興味をひくイラストや、6年生の歴史においては白黒写真をカラー化して掲示するなどしており、児童は単元のイメージを持ち、関心を高めやすい。さらに、単元を「まとめる」ページでは、年表や関係図、表にまとめるといった多様な表現活動を提示するなど、具体的・視覚的に学習活動を提示し、児童が見通しを持って取り組めるようになっており、優れている。

巻頭の「社会科で使う見方・考え方」を解説するページでは、社会的な見方・考え方を「時期や変化」「場所や広がり」「工夫や関わり」「比べる」「関連づける」「総合する」の6つの視点・方法に分類して示しているが、各単元では、キャラクターの発言の中に溶け込ませる程度にとどまっております。見方・考え方を働かせた学習を展開することが難しい。

4年生「地震に備えるまちづくり」では、『わたし・家族』も含め誰がどのような取組を行っているのかを表にまとめるとともに、地域の避難訓練に協力する高校生を取り上げたり、自分にできることを標語で表現する学習を設定したりするなど、社会参画の意識を高めるよう工夫されている。

中学年にだけ1時間ごとに「活動」が、5年生にだけ「自分で調べて考える」が示されるなど、学年によって構成が統一されておらず、どの学年でも同じように問題解決的な学習を進めることが難しい。また、4年生の巻頭では、都道府県名に使う漢字の読み書きが国語と、観察や実験などが理科と関連することなどが書かれているが、他教科と関わりがあるとの事実のみが示されており、学習内容の具体の関連までは示されていない。

■日本文教出版「小学社会」

教科書の随所に、「学び方・調べ方コーナー」が配置されており、調べ方のポイントやノートの書き方が示されており、資料の読み取り方の中で「確かめる」「見つける」「考える」など、読み取りの手順は示されているが、考え方の習得につながる記載が少なく、工夫が弱い。

1時間ごとに学習内容を深めていくための「問い」が示されており、また、単元のまとめの段階で「深め合い」の進め方とともに、相手の考えを聞き合う「深め合い」活動が具体的に示されることで、児童が対話の中で、単元で獲得した知識や個々の考えを比較したり、関連づけたり、総合したりしながら思考を広げたり、深めたりする言語活動を展開しやすく、思考力・判断力・表現力を培う手立てとなっており、優れている。

学習問題について話し合う場面では、個々がタブレットを活用してまとめたものを発表したり、相互に質問や応答を繰り返しながら、再度タブレットを活用してまとめを加筆・修正する学習活動が、キャラクターのイラストや吹き出しで順序だてて具体的に示されており、児童がICT機器を活用しながら考えを深めていく協働的な学習活動をイメージしやすく、優れている。

巻頭で、社会的な見方・考え方を「空間」「時間」「関係」の3つの視点に分類して解説した上で、

単元内においては、児童が働かせる見方・考え方を明記するとともに、見方・考え方を働かせるための学習活動を具体的に示すことで、児童が問題を追究する学習を展開しやすい。また、「さらに考えたい問題」や「問題を発見する」「問題を追究・解決する」などの学習過程が示されており、主体的な問題解決につなげることができるよう、工夫されている。

4年生「自然災害から命を守る」では、災害の時に自分たちの安全を守るためにすることとして、複数の事例を具体的に提示するとともに、マイ・タイムラインを紹介して作成を促したり、防災アプリの利用を伝えたり、地域の防災訓練への参加を勧めるなど、社会への関わり方を具体的に示しており、優れている。

巻末に「中学校へ向かって」のページがあり、写真を用いて中学校の社会科が「地理」「歴史」「公民」の3つの分野に分かれていることや、その内容を見方・考え方と関連付けてわかりやすく説明している。また、中学校で学びたいことを自分へのメッセージとして書き表す活動を提示しており、中学校の社会科への学習意欲を高めやすくなっており、工夫されている。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

社会科

観点別・視点別評価

「◎」優れている 「○」標準的 「△」やや劣る

選定の観点		選定の視点			東京書籍	教育出版	日本文教
1	基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。	1	用語・語句の取り上げ方や説明の適切さ	◎	◎	○	
		2	情報の集め方、読み取り方、まとめ方の工夫	○	○	△	
2	習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮がされていること。	1	課題を探究・解決する学習の進め方の提示	○	◎	○	
		2	知識・技能の活用を促す課題の設定	○	○	○	
		3	説明したり議論したりなどの言語活動の重視	○	○	◎	
3	児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮がされていること。	1	探究意欲を高め、主体的・対話的に学ぶための工夫	◎	◎	○	
		2	発展的な学習活動を促すための工夫	○	○	◎	
		3	ICT機器を活用するなど、個別最適な学びと協働的な学びを展開するための工夫	○	○	◎	
4	グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎の育成に向け、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動が展開しやすいこと。	1	社会的な見方・考え方に関する記述	◎	△	○	
		2	問題解決的な学習の充実を図るための工夫	◎	○	○	
5	持続可能な社会の担い手として社会や暮らしの問題に目を向け、社会の形成に参画する力を育てるとともに、伝統と文化を尊重し、我が国と郷土に対する愛情を育むことに資する教材や活動が適切に取り上げられていること。	1	社会や暮らしの問題に目を向け、社会の形成に参画するための工夫	◎	○	◎	
		2	領土に関する記述	○	○	○	
		3	伝統文化の重視	○	○	○	
6	単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮がされていること。	1	単元構成の系統性・発展性	○	△	○	
		2	他教科や教育課題等との関連	◎	△	△	
		3	他校種との接続	◎	△	○	
		4	家庭・地域との連携	○	○	○	
7	基本的な人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。	1	人権教育の推進	○	○	○	
		2	道徳教育の推進	○	○	○	
8	表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。	1	文章や写真、図表等の適切さ、正確性、使いやすさの工夫	○	○	○	
		2	ユニバーサルデザインの視点	○	○	○	
		3	装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫	○	○	○	
		4	用紙、インク等の環境面への配慮	○	○	○	

【社会】観点別資料

【選定の観点1】

基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

発行者名		
2 東京書籍	17 教育出版	116 日本文教出版
<p>○本文外の「ことば」欄で、学習で重要となる用語と共に学習上意味の理解が必要な言葉を取り出し、解説を加えて示している。また、単元末の学習のまとめに設定された「まとめの活動にことばを生かそう」に、キーワードを再度示し、その活用を促すことで、基礎的・基本的な内容を習得できるよう工夫されており、優れている。</p> <p>○教科書の随所に、「まなび方コーナー」が配置されており、情報の集め方、読み取り方、まとめ方などの学習技能が豊富に示されるとともに、読み取り方を示す中で「関連づけて考える」「特徴をとらえる」など、資料の特徴に合わせた思考手順が習得できるよう工夫されている。</p>	<p>○単元においてポイントとなる言葉や概念を本文中で太字標記するとともに、重要語句については、別枠の「キーワード」で解説を付すなど、重要語句の意味理解を促しながら学習内容を習得できるよう工夫されている。また、単元末の「まとめる」では、「キーワードをふり返ろう」のコーナーが設けられ、学習した言葉の活用を促すことで基礎的・基本的な内容の定着を図ることができるよう工夫されており、優れている。</p> <p>○教科書の随所に、「学びのてびき」が配置されており、資料の読み取り方や地図の書き方、着眼したいポイントなどの学習技能が分かりやすく記載されている。また、「表す」では「両面から考える」「二つの立場から考える」「順位付けをして考える」など、考える手順や方法について具体的に示し、工夫されている。</p>	<p>○本文に併設した別枠「キーワード」において、学習で重要となる用語を本文中の太字に対応させて取り上げて解説するなど、文脈に沿って意味理解が深められるよう工夫されている。</p> <p>○教科書の随所に、「学び方・調べ方コーナー」が配置されており、調べ方のポイントやノートの書き方が示されており、資料の読み取り方の中で「確かめる」「見つける」「考える」など、読み取りの手順は示されているが、考え方の習得につながる記載が少なく、工夫が弱い。</p>

【選定の観点2】

習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。

発行者名		
2 東京書籍	17 教育出版	116 日本文教出版
<p>○単元構成が「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の4段階に統一されている。また、「つかむ」で設定した問いに関連する学習内容について調べ、調べたことを書いて発表したり、疑問点について話し合ったりするなど、学習の流れが一貫しており、問題解決的な学習が展開しやすく、単元末にも学習問題が明記されていることで、学習問題の解決に伴う言語活動を行いやすくなっており、工夫されている。</p> <p>○「まとめる」学習においては、「まとめの活動にことばを生かさそう」として、単元内で示した重要用語が再掲されており、学習で重視してきたキーワードを改めて確認するなど、習得した知識・技能が活用できるよう、工夫されている。</p> <p>○単元終盤の「まとめる」の学習段階では、単元の学習内容に適した「マイ・タイムラインをつくる」「違いや共通点を図に整理する」などの豊富な言語活動が設定されており、学習を通して思考力・判断力・表現力を高められるよう、工夫されている。</p>	<p>○学習問題の追究・解決のプロセスが「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」として設定され、単元における学習過程が把握できるよう工夫されている。また、1時間ごとの活動の流れや、毎時間の終末には「次につなげよう」という記述があり、問いの連続性を大切にしたい問題解決的な学習が展開しやすくなっており、優れている。</p> <p>○「まとめる」の学習においては、「キーワードをふり返ろう」で学習したキーワードを生かしながら学習内容を整理する活動が用意されるなど、習得した知識・技能の振り返りと活用を促すよう工夫されている。</p> <p>○単元の「まとめる」のページでは、調べてきたことを図や表、関係図やカードにまとめるといった活動とあわせて、教科書の空欄に考えを記述したり記述の続きを考えたり、話し合ったり、説明したりする言語活動が設定されており、思考力・判断力・表現力を培う手立てとなるよう、工夫されている。</p>	<p>○単元冒頭で、学習問題と併せて「調べたいこと」や「調べ方」などを示す「学習の計画」欄が提示されており、単元全体の学習の進め方が明確になるように工夫されている。また、1時間ごとに学習内容を深めていくための「問い」が示されており、思考力・判断力・表現力を培う手立てとなっており、工夫されている。</p> <p>○「見方・考え方コーナー」で話し合いの視点が複数記載されており、該当するページにある資料を活用したり、既習を活用したりして、学習の中で話し合い活動に取り組みやすいように工夫されている。</p> <p>○単元のまとめの段階で「深め合い」の進め方とともに、相手の考えを聞き合う「深め合い」活動が具体的に示されることで、児童が対話の中で、単元で獲得した知識や個々の考えを比較したり、関連づけたり、総合したりしながら思考を広げたり、深めたりする言語活動を展開しやすくなっており、優れている。</p>

【選定の観点3】

児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。

発行者名		
2 東京書籍	17 教育出版	116 日本文教出版
<p>○単元の初めに、図や想像図、写真などが多く提示され、本文とともにそれらを見て気付いたことや疑問に思ったことを話し合う活動が設定されており、児童が主体的・対話的に問いを設定できるよう工夫されている。併せて、子どものキャラクターの台詞や吹き出しを疑問形で示し、学習の方向づけや思考の視点を明確にすることで探究意欲を高めるとともに、適切な場面で振り返りを促す工夫がなされており、優れている。</p> <p>○5年生「わたしたちの生活と環境」では、身近な事例を取り上げ異なる二つの立場の意見から自分の考えをまとめる学習が用意されている。また、各単元の「いかす」では、学んだことを生かして自分たちにできることを考え、その根拠を得るために追究を促すことをねらいとした発展的な学習が設定され、工夫されている。</p> <p>○まなび方コーナーの「しょうかいパンフレットをつくる」や「プレゼンテーションの資料をつくる」などで、ICT機器を活用して単元の学びを各自でまとめたり、友達に紹介したりする学習活動が、具体的な手順とともに示されていることで、児童一人一人が自分でICT機器を活用し主体的な学習が展開できるよう、工夫されている。</p>	<p>○単元の冒頭に興味をひくようなイラストや、6年生の歴史においては白黒写真をカラー化して掲示するなどしており、児童は単元のイメージを持ちやすく、関心を高めやすい。また、調査活動の様子を示した写真を掲載したり、1時間の活動の流れを記載するとともに、単元を「まとめる」ページでは、年表や関係図、表にまとめるなど多様な表現活動を提示するなど、具体的・視覚的に学習活動を提示しており、児童が見通しを持って取り組めるようになっており、優れている。</p> <p>○各学年に「SDGsとつなげて考えよう」が設定され、5年生では「米づくりのさかんな地域の学習を生かした例」が具体的に示され、各単元の内容に関連付けて発展的な学習に取り組めるよう工夫されているとともに、単元内にも「これまでの社会科の学習を生かして考えよう」が示され、習得した知識や技能の活用を促すよう、工夫されている。</p> <p>○全学年の巻頭にある「タブレット型コンピューターを生かそう」で学年・学習内容に合わせたICT機器の活用方法が複数示され、児童が学習活動に合わせて自分で選択して活用することができるよう、工夫されているとともに、学習内容をまとめたり話し合ったりする場面で、タブレットを用いた学習活動をイラストで紹介するなど、ICT機器の活用を促している。</p>	<p>○単元の初めに写真や図、想像図などを見て疑問に感じたり、比べて気付いたりしたことを話し合う活動が取り入れられているとともに、資料を根拠にした児童の気付きから問いの設定に至るまでの過程が重視されているため、児童の意識の流れに沿って学習に取り組むことができ、探究心が高まるよう工夫されている。</p> <p>○各単元に「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」が設定され、5年生「環境とわたしたちの暮らし」では、これから開催される国際博覧会を取り上げることで児童の興味を高めるなど多様な取組を紹介し、自ら追究することでよりよい未来を創るためにできることが考えられるよう工夫され、また6年生「わたしたちの願いと政治のはたらき」の単元末では「区への提案」を考え、発表する活動が設定されるなど、習得した知識を活用して発展的な学習へ促す工夫がされており、優れている。</p> <p>○学習問題について話し合う場面では、個々がタブレットを活用してまとめたものを発表したり、相互に質問や応答を繰り返しながら、再度タブレットを活用してまとめを加筆・修正する学習活動が、キャラクターのイラストや吹き出しで順序だてて具体的に示されており、児童がICT機器を活用しながら考えを深めていく協働的な学習活動をイメージしやすく、優れている。</p>

【選定の観点4】

グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎の育成に向け、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動が展開しやすいこと。

発行者名		
2 東京書籍	17 教育出版	116 日本文教出版
<p>○「学習の進め方」のページで、社会的な見方・考え方を「位置や広がり」「時間」「かわり」「比べる、分類する、総合する、関連づける」の4つに分類して解説した上で、単元内においてはキャラクターの囲み表示で、基本的に見開き1ページに1つ児童への問いとして適切に提示されており、児童が見方・考え方を働かせて思考を広げて課題を追究しやすく、優れている。</p> <p>○豊富で印象的な図や写真を示したり、様々な仕事や活動に従事する人々の話を登場させたりして児童の問題意識を高め、「どのようにして変化してきたのか」「どのような影響を与えたか」「どのように変えていったのか」など、追究過程で思考を促す学習問題を設けたり、「学びのポイント」で思考を引き出す問いかけを示したりすることで、主体的な問題解決に繋げることができるようになっており、優れている。</p>	<p>○巻頭の「社会科で使う見方・考え方」を解説するページでは、社会的な見方・考え方を「時期や変化」「場所や広がり」「工夫や関わり」「比べる」「関連づける」「総合する」の6つの視点・方法に分類して示しているが、各単元では、キャラクターの発言の中に溶け込ませる程度にとどまっており、見方・考え方を働かせた学習を展開することが難しい。</p> <p>○教科書見開きページごとに、「この時間の問い」と「次につなげよう」が示されることによって、各時間の学習と次の学習の継続性を意識でき、単元に見通しをもつことができるよう工夫されている。また、「自分で調べて考える」では、学習活動の手順や必要な資料、資料から考えることなどが数ページに渡って示され、主体的に問題解決に取り組むことができるよう工夫されている。</p>	<p>○巻頭の「教科書の中のいろいろなコーナー」のページで、社会的な見方・考え方を「空間」「時間」「関係」の3つの視点に分類して解説した上で、単元内においては、児童が働かせる見方・考え方を明記するとともに、見方・考え方を働かせるための学習活動を具体的に示すことで、児童が課題を追究する学習を展開しやすく、工夫されている。</p> <p>○写真や図、年表などの資料が充実しており、また、吹き出しにおいて、資料を基にした児童の気付きや疑問を示すなど、新たな問題意識を喚起し、主体的に問題を追究・解決していけるように工夫されている。さらに「さらに考えたい問題」や「問題を発見する」「問題を追究・解決する」「問題をほりさげ、よりよい未来をつくる」などの学習過程が示されており、主体的な問題解決に繋げることができるよう、工夫されている。</p>

【選定の観点5】

持続可能な社会の担い手として社会やくらしの問題に目を向け、社会の形成に参画する力を育てるとともに、伝統と文化を尊重し、我が国と郷土に対する愛情を育むことに資する教材や活動が適切に取り上げられていること。

発行者名		
2 東京書籍	17 教育出版	116 日本文教出版
<p>○4年生「風水害からくらしを守る」では、県や市、地域の防災への取組を具体的に取り上げ、さらに家庭での取組にまで広げて家の人へのインタビューやマイ・タイムラインの作成など、自分たちにできる防災への取組を具体的に考えて行動につなげるなど、地域や社会の形成に参画することの重要性を理解できるよう工夫されており、優れている。</p> <p>○5年生「世界の中の国土」で領土の範囲や領土問題について、写真、地図、文章で記載されるとともに、国土を構成する島々や周りの国々、日本の東西南北端を確認する学習活動などを促しており、資料を活用して領土の理解を深められるよう工夫されている。また、6年生「新しい日本、平和な日本へ」では、領土問題とともに、日本が周りの国との友好関係を築く努力をしてきたことも示されており、領土への理解や国際協調の大切さに気付くことができるよう工夫されている。</p> <p>○6年生「今に伝わる室町文化」では、書院造が現在の和室につながっていることや、能・狂言が無形文化遺産に登録されていることを紹介するとともに、「室町文化を体験してレポートを書こう」の学習では、茶の湯の体験学習の様子が詳しく例示されており、体験的な学習を通して生活文化に息づく日本の伝統と文化を実感し、受け継いでいこうとする意欲・態度を育めるよう工夫されている。</p>	<p>○4年生「地震に備えるまちづくり」では、『わたし・家族』も含め誰がどのような取組を行っているのかを捉えられるよう、表にまとめるとともに、地域の避難訓練に協力する高校生を取り上げたり、自分にできることを標語で表現する学習活動を設定したりするなど、社会参画への意識を高めるよう工夫されている。</p> <p>○5年生「世界の中の日本の国土」では、写真を用いて日本の領土を線で囲む活動が設けられたり、対馬の写真に「人々が住み続けることは、島の土地や歴史を守り、国土を守ることにもつながる」という解説が付されたりしている。また、領土と排他的経済水域の広さを他国と比較することで、我が国が多くの島々で構成されている海洋国家であることを捉えることができるように工夫されている。6年生「平和で豊かな暮らしを目ざして」では、領土問題だけでなく、朝鮮通信使に関する記録が世界記憶遺産に登録されたことが取り上げられるなど、他国との友好な関係を築くことの大切さに気付くことができるよう、工夫されている。</p> <p>○6年生「室町文化と力をつける人々」では、祇園祭と狂言が人々のくらしの中から生まれた文化として取り上げられ、写真や狂言師のコメントが、室町文化と現在の文化のつながりに児童が気付く手立てとなっている。また、「まとめる」の学習では、「外国から日本に来た旅行者をおもてなしするつもりで、室町時代に生まれた文化について、学習したことを生かして説明しよう」という活動が設けられ、外国語科の学習と関連づける工夫がされている。</p>	<p>○4年生「自然災害から命を守る」では、災害の時に自分たちの安全を守るためにすることとして、複数の事例を具体的に提示するとともに、マイ・タイムラインを紹介して作成を促したり、防災アプリの利用を伝えたり、地域の防災訓練への参加を勧めるなど、社会への関わり方を具体的に示しており、優れている。</p> <p>○5年生「世界から見た日本」では、日本の位置と範囲を「主に緯度と経度で説明する」「主に大陸と海洋や海で説明する」「主に隣り合っている国で説明する」など、様々な表現での説明を促しており、国土の特色が理解できるよう工夫されている。また、北方領土等について地図帳の活用を促し、児童が主体的に調べの中で理解できるように工夫されている。6年生「新しい日本へのあゆみ」では領土に関して、日本政府が慎重に対応していることに触れたり、5年生で学習した「領土・領海・領空・排他的経済水域」を再度取り上げたりするなどして、用語や領土への理解を深められるよう、工夫されている。</p> <p>○6年生「今に伝わる室町の文化と人々のくらし」では、単元冒頭に大判で「洛中洛外図屏風」の祇園祭と現在の祇園祭の写真が示され、本市の児童にとっては、室町時代と現代の京都市をつなげて捉えやすい。また、茶の湯、生け花は、室町時代から今に続く生活文化であることに気付かせるとともに、「茶の湯や生け花を習ってみたいな」という吹き出しが、日常生活に根づく伝統文化への興味を高める手立てとなるよう、工夫されている。</p>

【選定の観点6】

単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。

発行者名		
2 東京書籍	17 教育出版	116 日本文教出版
<p>○各学年・各単元の構成や紙面が統一され、どの学年、どの単元でも同じように問題解決的な学習を進めやすい。また、例えば4年生では「水はどこから」で水の流れを図に表し、次の単元「ごみの処理と利用」でゴミ処理の流れを図に表し、さらに「風水害からくらしを守る」で取組を図に示すなど、既習単元の内容を活用して児童が学習を進められるよう、工夫されている。</p> <p>○6年生「わたしたちのくらしと日本国憲法」「国の政治のしくみと選挙」では、環境、自然災害、高齢者の福祉、食料の確保など日本が解決を目指す9つの課題とその解決方法を例示し、優先順位を決めて話し合う学習活動が設定されており、現代的諸課題を児童が意識できるよう工夫されている。</p> <p>4年生「自然災害からくらしを守る」の学習では理科の「天気の様子」、5年生「米作りのさかんな地域」では家庭科「ご飯の調理」、6年生「貴族のくらし」では国語科の「日本の文字」などを、関連する学習単元としてマークで示しており、他教科との関連を具体的に意識できるようになっており、優れている。</p> <p>○巻末に「中学校に向けて」のページがあり、写真を用いて地理・歴史・公民の学習内容を示した上で、中学校の学習内容が小学校の学習内容を発展させたものであることに気付かせたり、中学校社会科で主体的に学習したいことを投げかけたりするなど、中学校での学習への期待や意欲を持ちやすく、優れている。</p> <p>○5年生「くらしを支える食料生産」の産地調べでは、家庭からスーパーマーケットのチラシを持ってくるなど、子どもたちの暮らしに根付いた事実から社会的な事象へと問題意識を広げられるよう、工夫されている。</p>	<p>○中学年にだけ1時間ごとに「活動」が、5年生にだけ「自分で調べて考える」が示されるなど、学年によって構成が統一されておらず、どの学年でも同じように問題解決的な学習を進めることが難しい構成となっている。</p> <p>3年生「わたしたちの市のあゆみ」では、市の様子の移り変わりや商店の働きの学習を結びつけ「人口減少」という社会的な課題に児童が気づくように工夫されている。同様に、5年生「未来をつくり出す工業生産」では、工業生産の学習にとどまることなく、「少子化」「高齢化」「環境」「国際化」などの社会的な課題と関連付けた発展的な学習が進めやすい。</p> <p>○5年生「これからの食料生産」では、日本の食料生産の発展について考える学習を設定し、消費者と生産者の両方の立場から考える視点に加えることで、現代的諸課題に対して児童が多角的に考えられるよう工夫されている。</p> <p>3年生の巻頭の「生活科をふり返ろう」では生活科との接続、連携が重視されている。また、4年生の巻頭では、都道府県名に使う漢字の読み書きが国語と、観察や実験などが理科と関連することなど、他教科と関わりがあるとの事実のみが示されており、学習内容の具体的な関連までは示されていない。</p> <p>○巻末に「6年生の学習をふり返ろう」のページがあり、中学生になったら「地理」「歴史」「公民」を学習することが書かれているが、中学校での学習があまり示されておらず、具体的な学習内容を想起することが難しい。</p> <p>○5年生の、自分たちの生活が、様々な情報に囲まれて成り立っていることに気付く学習では、その出発点を「家の人へのアンケート」とするなど、家庭と学校での学びを結びつける配慮が見られ、工夫されている。</p>	<p>○各学年・各単元の構成が「問題を発見する力を身につけよう」「問題を追究・解決する力を身につけよう」「問題をほりさげ、よりよい未来をつくる力を身につけよう」で統一されページ下段に示されている。単元の導入では、素朴な疑問や発言を示した後、それらを集約して「学習問題」が設定され、さらに新たな資料からの気付きを生かして「さらに考えたい問題」が設定されており、どの学年、単元でも児童の疑問や問題意識の幅を広げたり、深めたりしながら問題解決的な学習を進めやすく、工夫されている。</p> <p>○各単元の学習内容に合わせて随所に「考えよう！SDGs」が示されているとともに、すべての単元末に「未来につながる～わたしたちのSDGs～」が設定され、例えば5年生「日本の国土と人々のくらし」では、「バイオマス産業都市」が取り上げられ、持続可能な社会について児童が調べたり考えたりできるよう、工夫されている。</p> <p>3年生「わたしたちの住んでいる市のようす」の単元末における「学び方・調べ方コーナー」において、国語科の内容「話すこと・聞くこと」に対応した表現活動が示されているが、他教科との関連を示すマークや記述が見られず、児童が意識しづらい。</p> <p>○巻末に「中学校へ向かって」のページがあり、写真を用いて中学校の社会科が「地理」「歴史」「公民」の3つの分野に分かれていることや、その内容を見方・考え方と関連付けてわかりやすく説明しており、中学校の社会科への学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○3年生「安全なくらしを守る人々の仕事」では、学習活動のまとめとして作成したポスターや標語を地域の掲示板に貼ることや、「うつりかわる市とくらし」では、博物館の見学を中心にした学習活動が例示されており、地域と連携した学習の展開を促すようになっており、工夫されている。</p>

【選定の観点7】

基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

発行者名		
2 東京書籍	17 教育出版	116 日本文教出版
<p>○コラムで、差別されてきた人々のことを継続的に取り上げ、人権について継続的に考えていけるよう工夫されている。また、人権問題や外国人問題、ユニバーサルデザインなど複数の事例を写真と解説で具体的に示しており、身近な自分自身の生活と人権との関わりについて考えられるよう、工夫されている。</p> <p>○「情報産業とわたしたちの暮らし」では、報道被害を伝える新聞記事とともに、「ことば」のコーナーでも報道被害の用語を説明しており、道徳性の育成の視点につながる内容が取り上げられている。</p>	<p>○キャラクターの児童に車いすに乗った児童を登場させ、多様性を示している。また、コラムや資料で、アイヌの人々や琉球王国の人々、楠瀬喜多、石川倉次、マララさんなど、人権尊重や男女平等に関わる様々な人物を取り上げ、今日の人権問題についても、考えが深められるよう、工夫されている。</p> <p>○「情報を伝える人々とわたしたち」では、情報の発信者としてできることを取り上げ、人を傷つける書き込みや記事を取り除く努力をしていることを伝え、道徳性の育成を促している。</p>	<p>○コラムでエルトゥール号の遭難と救助活動を取り上げ、6年生「日本国憲法と政治のしくみ」では、人権問題を実際に存在するものと感じられるように、人権についての世論調査の結果やコロナ差別などの資料を提示し、人権問題について自分の考えを書く学習活動を設定するなど、自分自身の生活と人権との関わりについて考えられるよう、工夫されている。</p> <p>○「情報社会に生きるわたしたち」では、「コラム」で生放送中に災害が起こったときの緊急対応を紹介し、災害報道のときは取材より安全を最優先するという対応から、道徳的価値の気付きを促している。</p>

【選定の観点8】

表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名		
2 東京書籍	17 教育出版	116 日本文教出版
<p>○文字はUDフォントを使用し、ページ構成や字体などが統一されており読みやすくしている。各ページの資料には、通し番号が付されており、目で追いやすく、工夫されている。</p> <p>○再生紙・植物油インキを使用し、CUDの観点から全ページにわたり淡い色を基調とし、配色およびデザインに配慮している。</p> <p>○本の寸法はAB版である。5・6年生は分冊にし、重量負担を軽減している。</p> <p>○本文と資料がはっきりと区別できるようにレイアウトされ、重要な用語・語句は太字にしたり、文節で改行したりするなど、全ての児童に見やすく読みやすい紙面になるよう工夫されている。</p>	<p>○文字はUDフォントを使用し、ページ構成や字体などが統一されており読みやすい。各ページの資料には、通し番号が付されており、目で追いやすく。</p> <p>○再生紙・植物油インキを使用し、CUDデザインの観点から全ページにわたり淡い色を基調とし、配色およびデザインに配慮している。</p> <p>○本の寸法はAB版である。「○○さんの話」などは、塗りつぶしとなっているが、見にくさは感じない。</p> <p>○絵や写真、図などの資料がバランスよく配置されている。また、重要な用語・語句はキーワード欄に記したり、太字にしたりするなど、読みやすく工夫されている。</p>	<p>○文字はUDフォントを使用し、ページ構成や字体などが統一されており見やすい。各ページに、資料に大きく通し番号が付けられており、目で追いやすく。</p> <p>○再生紙・植物油インキを使用し、CUDの観点から全ページにわたり淡い色を基調とし、配色およびデザインに配慮している。</p> <p>○本の寸法はAB版である。単元末のノートには細かい字で記載されているが読みにくさは感じない。全体的に淡い色使いである。</p> <p>○絵や写真などの資料が豊富であるとともに、本文中には関連する資料番号を付しているため、照合しやすい。また、重要事項を太字で表記したり、キーワード欄で説明したりするなど、大切な言葉や事項が理解しやすいよう工夫されている。</p>

※UDフォント：ユニバーサル・デザインフォント、CUD：カラー・ユニバーサル・デザイン